

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
固澀剂 澀腸固脱剂 1		
しんじんようぞうとう 真人養臟湯	澀腸固脱・温補脾腎	白芍 48g・当帰・人参・白朮各 18g・肉豆蔻 15g・肉桂・炙甘草各 24g・木香 42g・訶子 36g・罌粟殻 108g 粉末にし 1日 3回 6g ずつ水煎して温服する。
和剂局方	<p><主治> 久瀉久痢、脾腎虚寒 慢性の下痢、腹痛があり暖めたり抑えると軽減する、食欲不振、倦怠感、舌質が淡、舌苔が白、脈が沈遅などを呈す。</p> <p><病機> 脾腎陽虚による腸失固摂である。 下痢や泥状～水様便が長期間続いたために脾腎の陽気が衰え、腸も固摂できなくなって下痢が止まらなくなり（大腸滑脱不禁）、甚だしいと失禁するに至り、これが更に脾胃を衰弱させるという悪循環を形成する。腹痛、喜温喜按、食少倦怠、舌質が淡、舌苔が白、脈が沈遅などは、脾腎虚寒を示している。</p> <p><方意> 澀腸固脱の標治を主体にし、温補脾腎の本治を併用する。 澀腸止瀉の罌粟殻・訶子が標治の主薬で、大量に用いている。温腎暖脾の肉桂・肉豆蔻が本治の主薬であり、肉豆蔻は澀腸にも働く。補気健脾の人参・白朮・炙甘草、養血和宮、止瘕の当帰・白芍、調気導滯、止痛の木香は、気血を調和して主薬を補佐する。全体で澀腸止瀉、温補脾腎、止痛止瘕の効能が得られる。</p> <p><参考> 陽虚の程度が強ければ炮附子を加える様に指示されている。 下痢の早期に本方を用いると邪を留めて悪化を招く。</p>	
ろくちゅうさん 六柱散 (六柱丸)	澀腸固脱・温補脾腎	人参 6g・附子 6g・木香 9g・茯苓 9g・肉豆蔻 12g・訶子 12g 水煎し服用する。 「真人養臟湯 - (当帰・白朮・肉桂・炙甘草・罌粟殻) + (附子・茯苓) に相当する。
濟生方	<p>主治は、久瀉久痢、脾腎虚寒 本方（六柱散）は真人養臟湯と方意がほぼ同じであり、温補脾陽に重点がある。</p>	
はちちゅうさん 八柱散 (八柱丸)	澀腸固脱・温補脾腎	人参 6g・附子 6g・乾姜 3g・白朮 9g・肉豆蔻 12g・罌粟殻 18g・炙甘草 6g 水煎し服用する。 「六柱散 - (木香・茯苓・訶子) + (乾姜・白朮・罌粟殻・炙甘草)」又は「真人養臟湯 - (当帰・肉桂・木香・訶子) + (附子・乾姜)」に相当する。
	<p>主治は、久瀉久痢、脾腎虚寒 本方（八柱散）は六柱散より温腎、澀腸の効能が強められている。</p>	